

## 第5学年体育科学習指導案

日 時 平成22年11月19日(金) 5校時  
児 童 5年3組 男16名 女18名 計34名  
指導者 佐々木 健也

### 研究課題

自己の課題に意欲的に取り組もうとする姿を目指して  
～仲間との交流を通して～

### 研究課題について

高学年ともなると運動の得意、不得意がはっきり分かれてくる。本学級でも運動が苦手で、なかなか達成感を味わうことができない児童がいる。児童が体育の授業の中で、友達と関わりながら何か一つでもできるようになった、仲間と一緒に自己の能力を向上することができたと、達成感を味わうことができるような授業を考え、展開していきたい。

そこで技能向上のポイントを理解させたいので、児童同士で声をかけ合い活動していくこと、お互いに足りないところを共有したり、友達の技能上の良さを認め合えたりできるのではないだろうかと考え、本課題を設定した。

## 1 単元名 心一つに はじめて つないで (E ボール運動 イ ネット型)

### 2 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童は、体育の授業が好きと答える児童が多く、休み時間も意欲的に運動しようとする児童も多い。しかし、運動に自信がなく消極的になってしまう児童や、運動経験の少なさから何をどうしたらいいかわからず動けない児童もいる。

児童は低・中学年では、ゲーム領域でボールを蹴る、投げる、捕る動作について学習している。しかし、ボールを弾くという動作については、まだまだ経験的に乏しい部分がある。今回のソフトバレーボールに対するアンケートでは、みんなで協力することが楽しそう、チームワークが大事だと思うなど、楽しそうな運動だと感じている児童が多い。また、バレーボール経験者が3人いるので、ポイントを示してもらいなどして関わらせていきたい。技能上のポイントを共有したり動き方を教え合ったりしながら、苦手意識があっても積極的に運動できる児童を育てていきたい。

#### (2) 教材観

ソフトバレーボールは「ネット型」の運動である。「ネット型」の運動は、ネットをはさんで2チームが分かれ、自陣のコートで相手に邪魔されることなく攻守を組み立てることができる運動である。また、攻守がはっきり分かれているため、作戦を立てた攻撃や相手に合わせて守ることを考えやすい。そのため、サッカーやバスケットボールなどのような接触プレーや攻守の切り替えが多い運動に比べ、運動が苦手な児童でも安心してゲームに参加することができる。さらに、他の教材に比べて経験差が少なく、どの子もほぼ同じ技能からスタートできることも特徴である。

ソフトバレーボールは、チームでパスをつなぎ合いネットをはさんでラリーを続け、力を合わせて得点を競い合うところに楽しさや喜びを感じられる運動である。ボールをうまくつなぐためには、ボール操作の個人技能を習得しつつ、チームとしての集団技能を高めていくことが必要となってくる。また、失敗がそのまま相手の得点につながるが多いので、励ましの声やサポートする動きが大切である。攻撃するときの作戦を考えたり相手に合わせて守ったりと、チーム内の役割をはっきりさせてゲームを行うことができる教材である。

ボールをつなぐためにチームで個人の課題と関わったり、攻撃するためにチームの課題を話し合ったりと課題を意識して運動に取り組むことで、ボール操作の基礎技能を育てること、及び集団的達成感を味わわせることができる教材であるといえる。

#### (3) 指導観

児童は、ボールを弾くという運動や「ネット型ゲーム」の経験が少ないことから、技能面やルールを考慮し教材を設定し指導を進めていく必要がある。そのために、指導にあたって工夫したいことは以下の4点である。

##### ①基礎感覚・基礎技能の習得

ボール操作の技能習得(主にアンダーハンドパスでボールを弾く技術・サーブで相手コートに入れる

技術) やボールをつなぎ合うために、落下点にすばやく移動する動作や、チームでボールを落とさずどれくらいつなぎ合えるかなどを、類似運動やドリルゲームとして毎時間取り入れる。

②作戦作り

チーム練習でのボール操作や動きなどをゲーム1で確認させる。その後ゲーム1を振り返る中で作戦を立てさせ、ゲーム2を行わせる。

③児童の実態に合わせたルールの工夫

ワンバウンドやキャッチを認めるやさしいルールを提示する。慣れてきた場合、児童の声や実態に応じて弾力的にルールを変更していく。

④課題を意識して取り組むために

目標を意識させることで何をすればよいのかがはっきりするため、チーム練習内における個人の目標やゲーム2におけるチームの目標を作戦カードに書かせるなどして取り組ませる。

3 目標

運動への関心・意欲・態度	・仲間とともに進んで学習に取り組み、全力で運動しようとしている。
運動についての思考・判断	・チームの特徴や個人の特徴について交流し、練習しようとする。 ・攻守についてチームで作戦を考え、工夫しようとしている。
運動の技能	・ボールの落下点にすばやく移動し、ボールを弾くことができる。 ・ボールを両手や片手で操作し、パスしたりサーブしたりすることができる。 ・作戦実行のために、チームの動きや個人の動きを理解し、ゲームの中で実践することができる。

4 指導計画

	1	2	3	4	5	6本時	7	8	
10 20 30 40	オリエンテーション ルール説明、学習の見通し、試しのゲーム	用具の準備、準備運動、基礎感覚づくり運動						ソフトバレーボール大会 5年3組 心を一つに!	
		チーム練習 (基礎技能の習得) ドリルゲーム							
		ゲーム1 4対4 ワンバウンドバレーまたはキャッチバレー 基礎的なボール操作やルールを覚え、ゲームを楽しむ。	ゲーム1 4対4 キャッチバレー チーム練習を生かしてゲームを進める。						
		ゲーム1の振り返り 作戦タイム							
		ゲーム2 4対4 ワンバウンドバレーまたはキャッチバレー 基礎的なボール操作やルールを覚え、ゲームを進める。	ゲーム2 4対4 キャッチバレー チームや個の特徴を生かした作戦でゲームを進める						
学習の振り返り									

5 本時の指導

(1) 目標

(運動についての思考・判断)

(運動の技能)

- ・チームの特徴を考えて作戦を立てている。
- ・ボールの落下点にすばやく移動し、ボールを弾いてパスすることができる。
- ・チームで立てた作戦に沿ってゲームの中で動くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価	場・用具
導入 7分	1 準備運動 2 基礎感覚を身につける類似運動 ・ボールキャッチ ・風船を弾いてパス 3 学習内容の確認	・レシーブ、トスにつながるようなボール操作を行わせる。	ボール 移動黒板 掲示・資料
	4 用具の準備	・前時の振り返りカードから、自分の目標を確認させる。 ・チームの特徴をチーム内で確認させる。 ・場の準備ができたチームから、チーム練習に入らせる。	振り返り カード コート3面
展開 33分	5 チーム練習 ・パスゲーム チームで1分間、連続何回続けられるかを競う。 ・サーブゲーム 相手コートを得点別に仕切りサーブする。1分間で何点取れるかを競う。 6 ゲーム1 ・4対4でローテーション ・試合時間5分 ・2試合行う(別チームと)	・ボールの落下点に入ること、声をかけ合ってパスすることを意識させる。 ・「1, 2の3」と児童に声を出させ、3のタイミングでサーブさせる。 ・ルールを確認し、4対4のゲームを行う。 ・ゲームに出ない児童が、審判や得点係、チームの動きを見るなど、役割があることを考えさせる。 ・うまくボールを弾けない児童に、手で水をかけるように両手でボールを弾くよう声をかける。 ◇ゲーム中、すばやくボールの落下点に入り、ボールを弾くことができる。(観察)	コート3面 ボール 掲示物 (ルール)
	(ルール) ゲーム2も同様 ・自陣では必ず3回触り、2回目はキャッチしてもよい。 ・キャッチする人はローテーションで交代する。 ・キャッチしてよいのは3秒間だけ。 ・サーブは1度失敗したら、相手の得点とせず、下投げで入れる。 7 ゲーム1の振り返り ・個人、チームの動きがどうだったか、振り返りを行う。 ・振り返りから作戦を立てる。 8 ゲーム2 ・ゲーム1と同様	◇ゲーム中、すばやくボールの落下点に入り、ボールを弾くことができる。(観察) ・ゲーム1の中で、自分たちのチームはどのように相手チームにボールを返していたか、また相手からきたボールをどのようにパスし合っていたかを振り返り、ゲームにつながる作戦を立てさせる。 ・チームの作戦を意識させるため、ゲーム開始前やゲーム中に確認するよう、声をかける。 ◇チームで立てた作戦に沿って、役割を意識して動くことができる。(作戦カード 観察) ◇ボールの落下点にすばやく入り、パスすることができる。(観察)	コート3面 得点板 ボール 掲示物 作戦カード
終末 5分	9 学習の振り返り	・立てた作戦どおりチームが動けたか交流させる。 ・うまくいったチームには、理由まで発表させ、次時の活動に生かす。	

